

東日本大震災の影響を受けた研修コースを再開

01



震災後初めて被災地の福島県を訪れた「医療電子機器」コースのマレーシア人研修員



「津波防災」コースの研修員は、宮城県女川町などを訪れ、港近くの津波被災状況を視察した

福島県での震災後初の研修となつたのは、6月中旬から始まつた「医療電子機器」研修。7人のマレー・シア人研修員が福島県を訪れ、医療電子機器の構造や保守管理などについて学びました。この研修の再開に向けJICA東北は、研修実施機関の株式会社メディサンがある郡山市に足を運び、水・電気などのライフラインや日用品の確保が可能であること、放射線量が人体に影響がないレベルであることを事前に確認。研修員の不安解消のため、この情報をJICAマレーシア事務所での説明会で参加者全員に伝えました。福島県では、さらに2つの研修コースが再開しており、今後もJICAは研修実施機関や受入地域と協力し、延期・中止になつ

3月11日に発生した東日本大震災の影響を受け、宮城県や福島県などの被災地で行われる予定だったJICAの研修コースも、その多くがやむなく延期や中止になりました。しかし、研修の実施機関と協力しながら、少しづつ再開し始めています。

た研修を再開できるよう取り組んでいきます。

また、震災の発生を受けて研修途中で帰国した研修員も多かった中、独立行政法人建築研究所(茨城県つくば市)の協力で行われている「津波防災」コースの研修員は、震災当日に震度6

△の支援 | 02

ソマリア、ケニア、エチオピア、ジブチなど、「アフリカの角」と呼ばれる東アフリカ地域で、過去60年間で最悪の干ばつが続いているおり、多くの人々が死亡、食料不足も広がっています。

特に被害が深刻なソマリアから多くの難民が隣国ケニアのダダブ難民キャンプに

東アフリカの干ばつに対するJICAの支援

02



ケニア北東部のダダブ難民キャンプには、7月現在、約38万人のソマリア難民が避難している

ソマリア、ケニア、エチオピア、ジブチなど、「アフリカの角」と呼ばれる東アフリカ地域で、過去60年間で最悪の干ばつが続いているおり、多くの人々が死亡・食料不足も広がっています。

特に被害が深刻なソマリアから多くの難民が隣国ケニアのダダブ難民キャンプに押し寄せ、キャンプは収容可能人数を大幅に超えています。JICAは、ケニア政府からの緊急支援要請を受けて、8月5日にファミリー用テント270張、スリーピングマット2500枚、プラスチックシート180巻、毛布2500枚、ポリタンク2016個、簡易水槽22台、発電機50台、「コードリール50台を供与しました。

また、8月8日には、無償資金協力を「第二次地方給水計画」の実施契約を締結。降水量の少ない南部地方に給水施設を50カ所以上建設するとともに、住民参加型の施設運営管理を支援し、干ばつ時でも安定的な水の確保を目指します。

JICAは今後のさらなる支援について、早急に検討していきます。

「グローバルフェスタJAPAN2011」にJICAも参加!

03



昨年は、JICAブースで展示や
キャリア相談などを実施

10月1日・2日に、東京・日比谷公園で開催される「グローバルフェスティバル JAPAN 2011」でJICAは、個別ブースでの展示のほか、メインステージでのトークショーなど、さまざまなイベントを企画しています。

目玉の一つが、グローバルフェスティバル道端ジェシカさんとJICA職員のパネルトーク。青年海外協力隊の活動などを視察した道端さんが、ネバールの実情や日本の若者の活躍などを報告します。また、医師でNPO法人地球のステージ代表理事の桑山紀彦さんによる毎年恒例のコンサート「地球のステージ 東日本大震災と国際協力版」も見どころの一つ。ステージ後には、東日本大震災の被災地で活動した国際協力NGOと、夏休みにODAの現場を視察してきた国際協力レポーター（市民）を交え、国内の復興支援と国際協力について語り合います。

（www.gfjapan.com）で、正確な情報
くだわー。